

国語科学習指導案

5年1組 29名 指導者 尾崎裕樹

本授業では、以下のような検証を行うものである。

- 本時まで使用したワークシートやノート、学習の手引き、語彙一覧表などを活用しながら学習を進めることで、相手に伝えるための情報を取り出し、効果的な構成や表現を考え、主体的に表現活動へと取り組むことができたか。

1 単元 読書の世界を広げよう 「千年の釘にいどむ」「本は友達」

2 目標

ドキュメンタリーを読み、本の世界や楽しさに気付くとともに、相手に応じて本を選び、本を推薦する活動を通して、読書の世界を広げ深めることができるようにする。

3 単元の評価規準

- 目的に応じて本を選び、進んで読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 自分や友達の推薦文の構成や工夫したところなどを筋道立てて説明している。【話す・聞く能力】
- 文章全体の組立てを工夫したり、効果的な表現を用いたりして推薦文を書いている。【書く能力】
- 目的に応じて本を選んで読んだり、書かれている事実に基づいて、自分の感想をまとめたりしている。【読む能力】
- 本のよさを効果的に伝えるための表現について理解し、活用している。

【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、相手に応じて本を選び、相手に読ませたい本を推薦する活動を通して、本の魅力やおもしろさに気付く、読書の幅を広げ、進んで本に親しむことをねらいとしている。

教材「千年の釘にいどむ」は、子どもに普段なじみが薄いドキュメンタリーであり、読書の視野を広げることができるものである。また、短い文章で緊迫感があり、文章構成も明快で、子どもが興味をもって読み進めることができるようになっている。

子どもたちは、これまでに、民話やファンタジーを読んで、本の帯を作ったり、紹介カードを作ったりして本のおもしろさを味わい、それを友達に伝える学習を行ってきた。また、5年教材「インタビュー名人になろう」では、自分が本の推薦文を書く相手の読書傾向や将来の夢などについてインタビューを行い、調査している。

本単元では、これまでの読書経験を生かしながら、教材文を基にドキュメンタリーという新しいジャンルの読書のおもしろさを味わわせ、内容について自分の考えをもたせるようにしたい。そこで、人物の思いや生き方を中心に教材文を読み、自分の生き方についても考えていくようにする。さらに、教材文で学んだ読み方を活用しながら、特定の友達の要望に応じた本の推薦文を書いて、読書会を行うようにする。その際、推薦文を書くために必要な語彙一覧表や前時までのワークシート、学習の手引き、ブックリストなどを積極的に活用し、子どもが自分の表現に生かせるようにする。書いた推薦文は、図書室に掲示することで、子どもの読書意欲が継続するようにし、多様なジャンルの本を主体的に読み、読書の幅を広げ深めていくことができるようにしたい。





ここでの学習は、6年1学期単元「読書の世界を深めよう」の情景や表現の工夫などに着目してノンフィクションを読み味わい、その読書体験を読書生活に生かしていく学習につながっていく。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、読書に関する興味・関心は高いが、読書の対象が物語に偏っていて、多様なジャンルの読書を進んで行う態度が身に付いているとは言えない。ドキュメンタリーという新しいジャンルの読書から、読書の楽しさを味わわせ、読書のジャンルを広げたい。そのために、中核教材の読みでは、子どもが読んでどこに感動したか、筆者や登場人物の考えを受けて、どのように考えたかを大切に、推薦文を書く活動に生かしていけるようにしたい。

また、子どもたちは、本の紹介に対しての興味・関心が高い。チラシや読書クイズなど多様な方法で表現したいと考えている。そこで、実際に他の学級が作成した推薦文を提示し、子どもの表現活動への意欲を高め、自分の言葉で作品の内容や筆者の伝えたいこと、自分の思いなどを伝えられるようにしたい。読み方が分からない子どもや書くことに抵抗のある子どもに対しては、学習ボードや学習の手引きを作成し、主体的に学習することができるようにするとともに、個に応じた指導を行っていくようにする。

5 指導計画 (総時数13時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	<p>1 自分の読書経験や既習教材を振り返り、読書の楽しさについて話し合う。また、他の学級の推薦文を読んで、単元全体の学習の進め方への見通しをもつ。</p> <p>2 「千年の釘にいどむ」「本は友達」を読み、学習のめあてを決め、学習計画を立てる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達に読んで欲しい本を推薦し、自分の生き方について考えよう。</p> <p>【関：相手意識、目的意識をもって、進んで読書をしようとしている。】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">他の学級で作成した本の推薦文を読むことにより、最終的な表現への見通しをもたせるとともに、どのように学習を進めていけばよいかを考えさせ、子ども自身で学習計画を立てることができるようにする。また、推薦文を書き、読書会をするという表現活動につなげていくために、ブックリストを活用させ、並行読書を進めさせておく。</p> 	2
情報をもとに考える	<p>3 「千年の釘にいどむ」を読み、登場人物の思いや生き方などを読み取り、自分の考えをまとめ、交流する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">推薦文を書く活動へとつながるように、人物の紹介、作品の主な内容、引用したい部分、人物の考え、自分の考えなどの観点に沿って、必要な情報を取り出していくようにする。</p> <p>【読：読みの観点に沿って、必要な情報を読み取っている。】</p> 	4
	<p>4 推薦文の書き方を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">導入の段階で提示した他の学級の子どもの推薦文をモデルにして、構成や表現の工夫に気付かせることで、子どもが推薦文の書き方を理解することができるようにする。</p> 	1
主体的に表現する	<p>5 相手に応じて本を選んで読み、推薦文を書く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">推薦文を子どもが主体的に書くために、学習の手引き、感想・評価語彙一覧表を配布し、活用できるようにする。</p> <p>【書：文章の組立てや表現の効果を考え、推薦したい理由や自分の考えなどが伝わるように書いている。】</p> <p>【言：伝えたいことを効果的に伝えるための構成や表現を意識して書いている。】</p>	4 (本時)
	<p>6 読書会を行う。</p> <p>【話：自分の推薦文について、推薦したい理由や構成、工夫したところなどを自分の言葉で筋道立てて分かりやすく説明している。】</p>	1
	<p>7 学習した読み方、書き方、学び方などを振り返り、今後の読書計画を立てる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読み方・学び方を中心に学習を振り返らせることで、学んだことが今後の読書生活に生かせるようにする。</p> 	1

6 本 時 (9/13)

(1) 目 標

相手や目的を意識し、文章の組立てや表現の効果を考え、推薦文を書くことができるようにする。

(2) 評価規準

推薦文の様式に沿って、相手によく伝わるように文章の組立てや表現を工夫して推薦文を書いている。 【書く能力】

(3) 指導に当たって

導入の段階では、学習の見通しをもつことができるように、推薦文の書き方を振り返らせるようにする。さらに、効果的に表現するためのモデルを提示することで、自分の表現に生かすことができるようにする。

展開の段階では、今までの学習を活用しながら推薦文を書いていく。その際、本時までのワークシートや学習の手引き、語彙一覧表などを参考にして書くようにし、自分の思いが相手に伝わるようにしていく。書くことができている子どもに対しては、友達と交流することで、友達の表現のよさに気付かせるようにし、自分の推薦文に生かすことができるようにする。書くことに戸惑っている子どもに対しては、学習の手引きを活用しながら教師と共によりよい表現方法を考えていくようにする。

終末の段階では、数人の子どもに推薦文を読ませることで、自分の推薦文をよりよい表現にしようという意欲を高めていくようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10 (分)	導入	<p>1 推薦文の書き方について想起し、効果的な表現についてのモデル学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじや内容を要約してまとめておかないといけない。 ・相手に思いを伝えるには、自分の思いにぴったりの言葉で書かないといけない。 <p>2 本時の学習のめあてと進め方を確認する。</p> <p>相手によく伝わるように表現を工夫して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の手引きを見たら書けそうだ。 ・表現を工夫して、〇〇くんが読みたくなるような推薦文を書こう。 	<p>効果的な表現の仕方を提示することにより、自分の思いが伝わるように書くことへの意識を高めることができるようにする。</p> <p>ワークシートを見直し、相手や目的を意識させて、それに応じた書き方ができるように助言する。</p>
		<p>3 推薦文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の考え方がよく表れた文章を引用しよう。 ・作品のテーマをはっきりさせたいな。 ・本を推薦する理由があるといいな。 ・本の内容に対する自分の考えをまとめよう。 ・言葉の一覧表から、自分の思いに合った言葉を選んで使ってみよう。 <p>早く書くことができた子どもたち同士で交流をさせることで、内容について相互に考えさせるようにしたり、書き終わっていない子どもにアドバイスをさせたりして、表現の質を高めることができるようにする。</p> <p>※ 推薦文の様式に沿って、相手によく伝わるように文章の組立てや表現を工夫して推薦文を書いている。 (原稿用紙への書き込みの観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫して書くことができている子どもに対しては、友達と交流することで、友達の表現のよさに気付くようにし、自分の推薦文に生かすことができるようにする。 ○ 工夫して書くことができていない子どもに対しては学習の手引きを確認させ、教師と一緒に考えるようにする。 	<p>学習の手引きの推薦文の書き方のポイントを評価の視点として相互評価をすることで、評価意識を高めていくようにする。</p>
22	展開	<p>4 学習グループで推薦文を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろい」「すごい」という言葉をもっと具体的に書いた方がいいな。 ・作品の内容がよく分かるように書かれているな。 ・引用が効果的だな。 <p>5 全体で推薦文を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは相手の性格や考え方をよく考えて本を推薦しているな。 ・〇〇さんの表現は、どんな作品なのかがよく伝わってくるな。自分も、もっと表現を工夫したいな。 ・〇〇さんの表現の工夫を自分の推薦文にも取り入れたいな。 	<p>聞き手は、発表者のどこがよかったのか、どこが工夫の余地があるのかを具体的に発表することで、評価の観点を全体で共有できるようにする。</p>
		<p>6 学習の成果を話し合う。</p> <p>文章を引用したり、自分の考えにぴったりの言葉を考えたりして表現の仕方を工夫すると、自分の伝えたいことが相手によく伝わるようになるな。</p> <p>7 次時の学習への期待感をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらによりよい言葉を選んで、次の時間に仕上げよう。 ・自分の課題が分かったから、次の時間に修正できるようにしよう。 	<p>表現の工夫ができたかという観点で本時の学び方を振り返らせるようにする。また、本時の学習の振り返りを学習計画表に記入することとで、自分の学習の状況や本時の学習の位置を確認させるようにする。</p> <p>本時の学びを賞賛し、次時の学習で、さらによりよく表現しようとする意欲を高めるようにする。</p>
3	終末		